

水泳はバランスのよい全身運動で、体力向上やリハビリと効能は盛りだくさん。そして水泳を通じて素晴らしい友人に恵まれました。

競い合い磨き合、今では全国大会のジャパンプラスターズ水泳大会に出場するまでになりました。

昔と違って今は一年中泳ぐことができます。水着も豊富にあり、練習風景は水面に咲く花とあったところ。それぞれを過ごしなが、水着一枚、飾りのない付き合いは良い人間関係を作ります。

自分のため家族のため、いつまでも若さと健康を保ち続けるよう活動しています。

(南雪谷 伊藤 早苗)

サークル紹介 ⑭

「水の中のふれあい」

水泳サークル ラメール

私たちは子育てをしながら、仕事をしながら、主婦業をしながら、ほんの少しの時間をさいて、毎週木曜日に東調布公園プールで汗を流しています。

水の中で手足を動かして、水と戯れると童心に戻ったように若返ります。水泳はバランスのよい全身運動



母校の思い出 ⑦

変わる小池、変わらない小池



去年、息子が小池の一年生になったので、久しぶりに校舎の前に立った。

ううん、変わったなあ……かーさまが、一年生の時は、校舎があっち側、校庭の方であって、土の校庭がこっち、つまり校舎側にあったの。で、体育館の場所に古い木造校舎があって、いつもワックスの匂いがしていた気がする。

二年生の時には、その校舎は壊されて、赤と緑の丸い窓が沢山あるピカピカの体育館が出来たんだよ。まるで、豪華客船みたいだったなあ。

次は芝生。ある年、土の校庭がすうーっと一面の芝生になったの。それはそれは本当にきれいで、気持ち良さそうで、スゴイ学校だと思ったね。でもね、君たちみたいなのが何人も、多い学年は六組まであったんだから約1,300人か、それが嬉しくて駆け回るんだから、堪らないよね、芝生も。あつという間に、ポロポロ。でね、外遊びが芝生がまた元気になるまで禁止なっちゃって、窓から早く伸びないかなーって、見てたんだよ。ちょっとお間抜けでしょ。

へえ、今はオープンルームにランチルームがあるの？すごいね。やっぱりねえ。さすが小池だね。本当に、新し物好きだよねえ。全然、変わらないんだねえ。

校章も校歌も同じだあ。そりゃそうか。えっ!!なんで歌えるのかって??こら。話を聞いてなかったのね。かーさまだって、小池の子だったんだってばー!!

何時?うーん、三十年前です。

(小池 倉橋 あかね)



私の健康法 ⑧

私も未だ若いと思っておりますが、池の台自治会と池の台老人クラブの理事を任命され二十数年の歩みです。

七十一まで働きました。会社が旧国鉄の下請け会社でしたので、日本全国北から南まで、製品の納入後の検査で出張しました。

寒暖の差が激しい地方ですから、身体が元手です。若い時は何でも良く食し、酒は何でもござれでした。それが現在の身体の財産です。



「編集後記」

今年の夏は例年以上の猛暑でしたが、いつのまにか秋風がこころよい季節にと移り変わってきています。

今回よりシリーズ「美しい環境づくり」が始まりました。あなたも身近なりサイクルについて考えてみませんか。

皆様からのご意見・ご感想等をお待ちしております。

創刊号以来、編集委員として活躍された、三浦 悦次さん(石川台)が交替されました。長い間ありがとうございました。

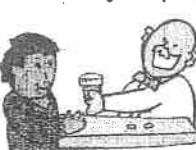
(発行) わがまち大田雪谷地区推進委員会

(編集) ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三三
電話 三七二九一五二七
(発行日) 平成十三年十月一日
通巻第四十四号

その後、交通事故で体調を崩し、六年前入院、一ヶ月後無事に退院、現在は元気です。

朝五時半に起き六時半出発、洗足池桜山でラジオ体操をし、家内友人と一緒に話しながら帰り、朝食。趣味は旅行と歩くこと、読書、書道等です。家内は踊りとフラダンスです。週三日が留守番で趣味の日です。煙草は六年前やめ、酒は少量です。池の台老人クラブの「歩こう会」には必ず月一回参加しています。

これからは夫婦仲良く手を携えて、長く生きたいと思います。



(池の台 S.S.)

ふれあい雪谷



平成13年

もみじ号



(石川台 渡谷 武次さんの作品)

雪谷の農業



現在私の家は雪谷地区で唯一の専業農家です。
先祖は荏原氏の一族で、戦国時代に、小田原北條に滅ぼされて、一族七人が雪谷に住み着いた一人です。他の六軒も、現在雪谷に住んでいます。

呑川、水神流れ等の湧水を用いて、低地は水田、水の無い場所は畑として営農して居りました。

時代が経つにつれて、畑作が主となり、町場への野菜の供給地となりました。大正から昭和初期には夏は畑で夜が明けるのを待って作業をし、午後三時頃には市場へ出荷し、長い夜は若衆が夜遊びに行ったそうです。中原街道の笹丸、洗足坂上等が若衆の憩いの場で、他地区の人々との交流の場所でした。

冬は小松菜・葱・大根・蕪等を、春夏には果菜・葉物類・馬鈴薯が、秋には特産の早生長人参・大根・唐菜・葱等が、牛・馬車・大八車等で、値段の高い処を求め、赤羽根・神田・京橋・近隣等の個人問屋へ出荷され、帰りには肥料として、町場の下肥を運んで居りました。

関東大震災の時は、雪谷は面積150町歩、150戸の理想的な村でした。震災後から、町場の人達が郊外に住む様になり、雪谷地区も次第に開けて来ました。

大正時代には西瓜も共同出荷され、品川区東大井の浜川から船へ手渡しで積込まれ、横浜へ出荷する船を待つ間に、海で泳ぎました。

農業も規模が少しづつ拡大され、出荷方法も共同出荷するようになり、出荷場が作られました。夕方野菜を大籠に入れ、リヤカーで出荷場へ運び込まれ、夜には、出荷物は当初は馬車で、その後は運送屋の1トトラックで、市内の各市場へ運ばれました。

夏場は、特産の丸葉山東菜・小松菜・果菜類、冬場の小松菜は、南の菜っ葉として最高値で売れました。

戦中は農産物統制令で食糧難、人手不足で困難し、陸稲・麦・南瓜・甘藷・馬鈴薯も作りました。

昭和24年に統制も撤廃され、野菜も高値に売れ生産も増加され、29年に、我家でも三輪自動車です。神田・淀橋・築地・近隣市場へ出荷出来る様になりました。都会化が進むにつれ農業が減少し、専業農家も我家一軒となり、都市農業の担い手となりました。

(東雪 直井 勝太郎 71歳)

注1 唐菜(チャボ菜)
白菜は最近出来たもので、昔はチャボ菜が秋に大量に漬け込まれた。

注2 赤羽根
港区芝赤羽根橋河岸

待望の第11回"スポーツまつり"いよいよ開催



"雪谷地区9自治会スポーツまつり"が池雪小学校に於ける10月21日(日)に開催されます。

今までは"ミニスポーツまつり"として皆様楽しんで頂いておりましたが、「あんなに盛大に行われているのだからミニがつく必要はないのでは」とのお声を頂き、今回から"スポーツまつり"と名称を変更しました。

このまつりは、雪谷地区の方々がみんなで楽しめるスポーツやレクリエーションを通じて、お互いに親睦を深め、子供達からお年寄りまでの世代を超えた交流の場となり、併せて地域に対する愛着心やお互いの助け合いの絆を一層深めていくことをねらいとした運動会です。

そのために、各自治会の会長さんをトップとし、各自治会選出の方や青少年対策雪谷地区委員会のメンバーが実行委員となり、どの年代の方々にも楽しんで頂けるようなプログラムを考え、参加賞をはじめ沢山の賞品を用意して、着々と準備を進めています。

各自治会に参加申し込みをして頂きますとお弁当も出ますので、皆様お誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

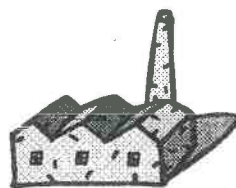
詳細は各自治会にお問い合わせ下さい。

(青少年対策雪谷地区委員会会長 森井 郁夫)

*昼休みには「盆おどり」を行います。ご参加お待ちしております。



美しい環境づくり①



「リサイクル」への提言

現在大量に捨てられるさまざまなごみに、処理場は悲鳴をあげています。今後の処理地の確保や清掃工場の機能が追いつかずパンク寸前です。その上ごみ処理による環境汚染も見逃せません。どうしてごみを分別して出すのかを知って下さい。

廃棄物、リサイクル関係の法律の推移をみますと、平成3年にリサイクル法、そして環境基本法、容器リサイクル法、家電リサイクル法が定められました。

ここでリサイクル品の実態は、次のようになっております。

衣類などについては、中古販売、生ごみは、コンポストによる堆肥、びんは一部アスファルトに、缶は、スチール、アルミへ再生、ペットボトルは成形加工原料へ、紙は古紙として再生、電池は水銀、マンガン、ニッケル等を分解し取り出して利用します。

以上が、リサイクルの概要ですが、分別し少しでも少なくなるのが大切なのです。

皆様も、今後とも使い捨て経済を再認識のうえ、自然を守ることに協力をお願いします。



(南雪谷 三上 一)

自治会リレー随筆

菊花と私



菊花とのであいは、昭和33年にさかのぼります。私の勤めが茨城県古河市になって2年余り、仕事にも馴れ余暇に何かをしたいと思っていた時、休憩時間に菊作りをしている仲間が誘ってくれたのです。

1年目は何の予備知識もなく、菊の苗や、土を分けてもらい、菊鉢や支柱・輪台を購入して、指導されるまま職場の空地で作り始めました。

害虫駆除の消毒や水やりは大切な仕事で、育てる事の楽しさに日曜も返上して作りました。

その甲斐あってかその年の職場での菊花展で、私の菊が1位になったのです。

こうなると指導してくれた仲間は「あとは1人でやりなさい」と言います。

そこで2年目からは参考書を買ってきて、研究しながら本格的な菊作りに取り組みました。

大輪の花は咲きますが、形やバランスにはきまりがあり仲々思うようにできません。今年こそはと意気込みながら、その年の天候にも左右されて、菊にふりまわされる日々が続きました。

勤務が東京になってから、菊作りの人に声をかけ昭和44年雪谷八幡神社に菊花会を作りました。

境内には会員が丹精した菊を11月中旬まで飾ります。11月3日には総代さんと会員が神社から招待されて小宴が開かれます。

振り替えれば40年、物言わぬ菊花の魅力に惹かれて、よくあきもせずここまで続けられたと思います。

(東雪 直井 勇)



茅掘りて

秋うらら

母仕立て

俳句

短歌

児らと味わう
(池の台 K・O)

刻告ぐる鐘
(東雪 水野 喜久)

語り思いし
(池の台 K・O)



この情報誌は古紙70%の用紙を使用しています。